

平成28年台風災害等からの復旧について

北海道森林管理局

平成28年の8月下旬、台風の統計開始以来1シーズンに2個以上の台風が上陸したことになった北海道に、4個の台風が連続して上陸ないし接近し、広範な地域において、道路や河川、鉄道等のインフラ、農地、農作物等に大きな被害をもたらしました。

林地や林道にも甚大な被害が発生し、平成29年3月末時点で2,770箇所、約209億円の被害が確認されました【表1】。林野庁を始め、多くの関係機関が早期復旧に向けて全力で取り組んで参りましたが、災害発生から一年半が経過した今、それらの取組の成果をご紹介します。

被災箇所の状況把握

早期復旧には、被害状況を早く正確に把握することが重要なことから、ヘリコプターやドローンを活用して効率的に調査を行いました。

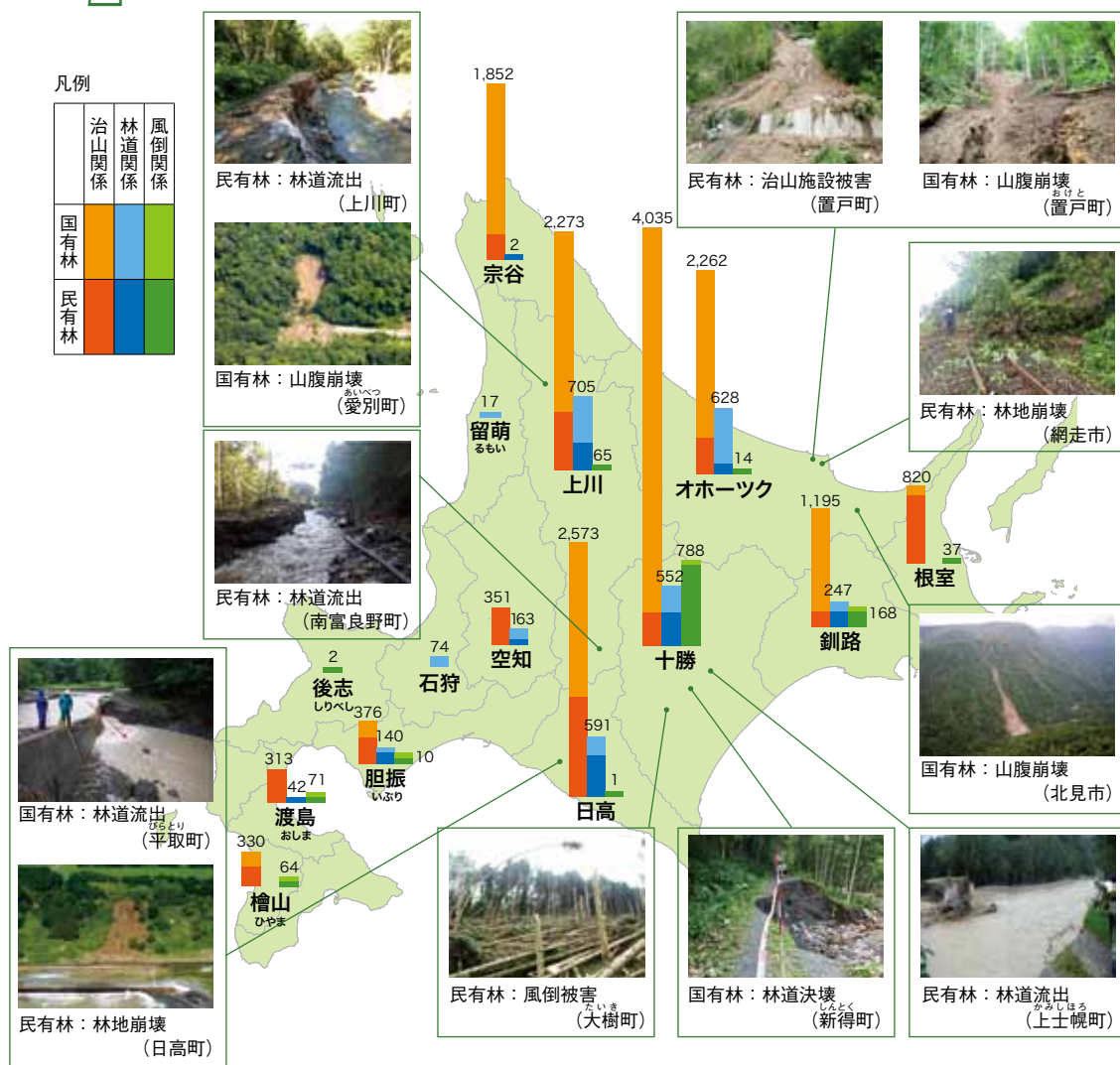
特に、ドローンによる撮影は機動性や効率性が高く、迅速に被害状況を把握することが可能で、撮影した映像等をもとに関係機関に情報提供したり、

1 平成28年度台風等による道内の森林・林業関係被害額

	林地荒廃・治山施設		林道等施設		風倒木		その他		合 計	
	箇所数	被害額 (百万円)	箇所数	被害額 (百万円)	面積 (ha)	被害額 (百万円)	箇所数	被害額 (百万円)	(面積) 箇所数	被害額 (百万円)
民有林	108	4,426	422	1,405	3,036	1,129	24	184	(3,036) 554	7,144
国有林	134	11,953	2,082	1,754	731	90			(731) 2,216	13,797
合 計	242	16,379	2,504	3,159	3,767	1,219	24	184	(3,767) 2,770	20,941

平成29年3月31日時点

2 北海道の森林被害状況 (被害額 単位：百万円)



復旧対策の検討に活用しました【図2】。

国有林における被害箇所の早期復旧



国有林で把握している林地荒廃等の箇所は134箇所、被害額は約120億円に上りました。

このような中、早期復旧に向け、平成28年度から平成29年度までに、56箇所ですべて災害関連緊急事業等を計画しましたが、工事の施工にあたり、これま

で詳細な設計図書を必要としていたものを、このような大規模な災害に迅速に対応するため、標準的な設計書で工事を発注し、細部は設計変更により処理する「概算数量発注方式」を取り入れ、工事の早期着手を実現しました。その結果、全計画箇所の98%にあたる55箇所ですべて工事に着手、そのうち18箇所（33%）で工事を完了することができました。（平成29年12月1日現在）【写真3】。

また、林道の被災箇所は2,082

所に対して、間伐の遅れなどを生じさせないよう、優先度の高い39路線について復旧工事を計画し、38路線（97%）で着手し、そのうち32路線（84%）で工事が完了しています（平成29年12月1日現在）【写真4】。これらの取組によってこれほど甚大な被害の中、間伐等の遅れを最低限度にとどめることができたと考えています。

地域と連携した復旧



今回の災害にあたり、局内に災害対策本部を速やかに立ち上げ、北海道、

関係市町村とも連携を図り、多くの関係者の協力を頂きながら災害対応を行ってまいりました。

また、平成29年10月には災害発生直後の現地調査における留意点や被災状況の把握手法について学ぶことを目的とした勉強会を、十勝西部森林管理署管内の国有林において開催しました【写真5】。検討会には全道の森林管理（支）署治山担当者及び北海道の十勝総合振興局及び日高振興局の担当職員計54名が集まり、座学と現地検討会を通じて治山担当者のスキルアップを図りました。

加えて、今回の災害の経験から、日常業務でもドローンを効率的に使用していくため、当局では日頃から各地で講習会を実施するとともに、今後のさらなる復旧に向けて、民有林の被害調査等にも協力しています。

今後に向けて



復旧が完了するまでには、まだ時間がかかりますが、引き続き被災箇所での早期復旧に向け取り組みとともに、災害に強い森林づくりや流木対策などを民有林等と連携し積極的にを行い、森林の機能を発揮させる整備を、地域の皆さまと話し合いながら進めて参ります【写真6】。



3 しらかが 白糠町での山地崩壊の状況（左）と復旧工事の施工状況（右）（根釧西部署管内）



4 しむかっぺ 占冠村の一休の沢川の増水で決壊した林道（左）と工事後の様子（右）（上川南部署管内）



5 勉強会の様子



6 ほろかない 幌加内町でのスリットダムによる流木対策（北空知支署管内）